

後楽園キャンパスにおける学び場の未来図

【取組概要】

理工学部では、[平成 26 年度教育力向上推進事業「多様な学びの ICT 環境整備と FD」](#)（平成 26 年度～平成 28 年度）で、講義教室におけるアクティブ・ラーニング環境を構築し、図書館理工学部分館に「PC ルーム（20 席）」と「グループ学習室」を設置しました。本取組では、これを基盤にして、利用者のニーズに対する部屋の規模や設備、使い勝手における課題をさらに改善するため、新たな学習の場として、①図書館にラーニング・コモンズ、②キャンパス内にアクティブ・ラーニング・スペースを整備します。

①のラーニング・コモンズの設置にあたっては、現在の図書館カウンターの位置及び機能を見直し、学生の学修支援のためのレファレンスサービスにより適した環境をつくります。ICT 環境を充実させ、多様な学修形態に対応した環境を学生に提供することで、グループ学習やディスカッション等を通して、学生が主体的・能動的な学修機会を得ることができます。

また、②のアクティブ・ラーニング・スペースの整備では、学生の能動的な学修の場を図書館の中だけに留めるのではなく、キャンパス全体に拡げることで、学生がいつでもどこでも気軽に学修に取り組むできる環境（ユビキタス・ラーニング）を整えます。これらのコミュニティスペースをそれぞれの場所ごとに、その特徴を生かした構成にすることで、学生の多様な学修形態に対応できる学びの場を創り出すことを考えています。

このほか、ICT 機器などを配置し、後楽園キャンパスの来訪者（学校見学等の中高生や保護者）向けに、理工学部における研究成果等の発信（企業のショールームのような空間もイメージ）を行うことで、次の世代の学生へ理工学部をより深く知ってもらう機会を創出したいと考えています。

【取組実績】

○2018 年度（平成 30 年度）

平成 30 年度は、図書館の一部を使い「ラーニング・コモンズ」を整備した。受動的な学修や「個」での学修からの変化を起こすきっかけとなった。これまでの図書館と異なる点として、声を出しても良い空間に変化したことがあげられる。今まで“静”の空間であった場所が、“動”（音のある・出せる）の空間へと変わったのである。これにより、「個」での学修が、「集合・相互」での学修へと変わり、能動的な学修「アクティブ・ラーニング」の形にも変化を起こすことができた。

1) 「ソファブース」

ファミレスのような形状の机とソファ（固定式）は、これまでの大学における学修環境とは一風違い、学外等での日常的な生活の一部のような雰囲気の間となり、利用率も高い状況である。学生同士が気を使いながら、ある一定程度の秩序が保たれ、それでいて、活発にグループ学習に利用している。教室や自習室にあるような学習机とは違う、少し砕けた、リラックスした雰囲気での学修となり、自由闊達な意見交換等が行われており、学修スタイルの一つとして活用されている。

2)「ラーニングスペース」

人数や用途に合わせ、形を変えながら、また自立型ボードを利用できるため、グループ学習を行うことを想定しているが、一方で、個人利用においても活用されている。

3)「FaceUpTable スペース」(TouchTable)

TouchTable は、対面テーブルの大型ディスプレイに情報を表示し、タッチパネルで画面を直接操作したり、接続した PC で操作したりすることで、電子情報を直接操作しながら、ディスカッションを行うことができる。他のスペースとは少し趣を異にした学修スタイルで、アクティブに、よりクリエイティブな学修をすることができる。実際の研究室のゼミでも、議論に合わせて資料の交換を行いながら、スピード感のあるグループ学習が行われている。

○2019 年度（平成 31／令和元年度）

学生の能動的な学修の場を図書館の中だけに留めるのではなく、キャンパス全体に広げること
で、学生がいつでもどこでも気軽に学修に取り組むできる環境（ユビキタス・ラーニング）の整備
を行った。

1) 6 号館 1 階ホール

- ①6 号館 1 階天井塗り替え、展示ケース設置
- ②掲示板スペース更新
- ③カウンターチェアスペースの設置
- ④テーブル&チェアスペースの更新
- ⑤デジタルサイネージの設置

2) 5 号館 2 階

- ①カフェテリア風パラソル付きテーブルの設置

1) 6 号館 1 階ホール

掲示板



展示ケース



国際交流や体育連盟の理工学部生の活躍を紹介

カウンター席



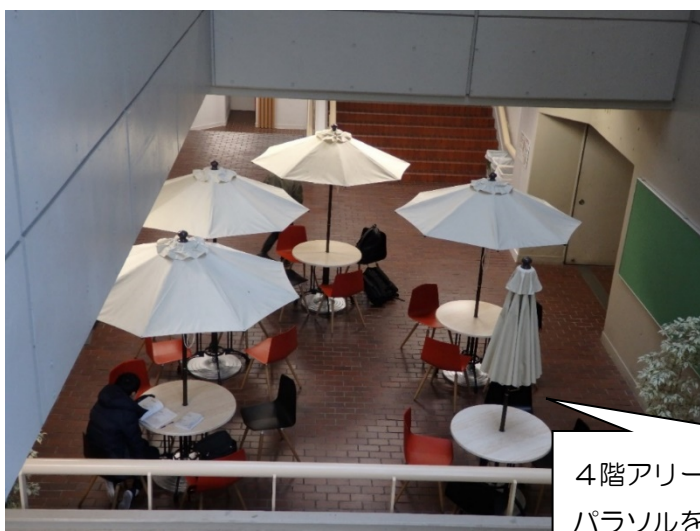
テーブル&チェアスペース



2) 5号館2階



既存のコピー機と自動販売機もあり、
学生に好評



4階アリーナでの式典等の際は、
パラソルを畳むこともできる

○2020 年度（令和 2 年度）

図書館理工学部分館において、新聞・雑誌閲覧コーナーの設備等を更新し、レイアウト変更のための改修工事を行った。自主的な学修が促進されることを目的に、限られたスペースを有効活用し快適な空間へと改善した。

1) 改修エリア

- ・図書館理工学部分館 6 号館 6 階（東側）（143.30 m²）

2) リニューアル設備

- ・新聞閲覧台〔4 台〕
- ・新聞閲覧テーブル〔6 席〕
- ・窓側カウンター電源コンセント付学修デスク〔15 席〕
- ・検索 PC 用デスク、周辺のケーブル配線
- ・展示雑誌架
- ・書架
- ・雑誌閲覧ソファ
- ・窓側ブラインド
- ・天井照明
- ・床カーペット
- ・窓側ブラインド



■新聞閲覧コーナー

スタンディングスタイルの新聞閲覧台やハイスツールなど、目線の高いエリアとなっており、気兼ねなく「とりあえず」何かを調べる・読むといった利用が可能。新聞閲覧台で紙面全体を見開きで読むことができ、台の上には照明をつけ、文字を読み易くしている。関心のある新聞を取り出し読むことができるテーブルもある。



新聞閲覧台



テーブル席

■図書館蔵書など検索用 PC コーナー

図書館蔵書検索、オンラインデータベースで情報を検索する PC 台は、椅子席かスタンディングスタイルを選べ、気軽に検索できるようになっている。



スタンディングスタイル



椅子席

■雑誌閲覧コーナー

新たな気付きや知識を獲得するエリアとして、理工系の学術雑誌を中心に多種類の雑誌の最新号を展示し、ブラウジングし易いよう、新しい雑誌架を設置している。気になる雑誌を見つけたら、雑誌コーナーのそばにある大型ソファに座って読める。展示雑誌数：約 150 タイトル



雑誌架



大型ソファ

■書架／新着本コーナー

従来の書架の高さを見直し広い空間を演出するために、敢えて低書架を配置している。この書架には、教員推薦本を推薦のコメント付きで展示したり、卒業後の進路選択の一助となるキャリア本を配架したりしている。また、テーマを絞って Pick Up した本の紹介もしている。新着本コーナーには、展示照明をつけ、気軽に手に取っていただけるよう案内している。



低書架



新刊本

■窓側カウンターデスクで集中できる学修環境

窓側の席は、隣の人を気にすることがないようにパネルで仕切っている席と隣の人と会話ができる席がある。デスクは、電源（コンセント）があり、プライベートパソコンのバッテリーを充電できる。USB ケーブルを挿して充電も可能。各席は、LED 照明付のため各自で手元の明るさを調整し利用できる。



窓側デスク



充電コンセント

このほか、用途に合わせて最適なエリア・施設をご利用いただけるよう、利用環境の向上に努めていく。



アクティブ・ラーニング・スペース



グループ学習室



図書館 PC 室

(本取組に係る具体的な成果)

1) 6 号館 1 階

天井、壁、テーブルが白を基調としたものに更新されたことから全体に明るくなるとともに、座席数が増え、スペースを利用する学生が増加している。以前の什器（丸テーブルと低めの椅子）に比べて、テーブルと椅子のスペースは、グループで課題に取り組むなど、学習に利用する学生が増えている。また、カウンターチェア席は、一人で集中して学習・作業する目的で利用する学生の姿が多くみられる。

掲示スペースは冊子等を配架する機能を付加するとともに、従来の紙の掲示スペースを縮小した。学生には、平成 31 年 2 月以降、情報伝達は Cplus へ積極的に移行すること告知し、4 月からは休講等の情報は原則 Cplus のみとする対応を実施していたため、工事完了後に特段の不都合は生じていない。

デジタルサイネージ 2 台を設置した。従来の掲示スペースが縮小したことに伴い、ポスター等をデジタルサイネージに掲出することも試行している。

展示ケースには、70 周年記念誌や、グローバル協定締結校からの記念品等を展示するほか、学友会事務室と連携し、体育連盟所属部会で理工学部学生が受賞した賞状やメダルを展示することとなり、理工学部生の活躍を広く周知することに貢献している。

2) 5号館2階

カフェテリア風パラソル付きテーブルを設置したことにより、カジュアルな雰囲気で行われている。夏工事のタイミングで、同スペースに従来から設置されているコピー機に加え、飲料の自動販売機の設置が実現し（かねてより学生から要望があった）、工事期間終了直後から人気スペースとなっている。パラソルは、夏は吹き抜け天井からの日差しを遮るとともに、上層階（5階踊り場）からのペットボトルなどの落下物が人に直撃することを防ぐ役割を果たしている。

3) 図書館内アクティブ・ラーニング・スペースの利用状況

2019年7月に実施した図書館理工学部分館利用状況等のアンケートには、グループ学習に有効で、増設を望む声が寄せられている。特に、授業実施期間の3・4時限は満席状態のことが多い。複数のホワイトボードを活用している例もあり、引き続き新しい学修環境のニーズに対応した整備の必要性を認識している。

4) 図書館内の情報検索及び雑誌・新聞コーナーの利便性向上

図書館の入口から5階開架閲覧室への動線にある「情報検索及び雑誌・新聞のコーナー」の配置を見直し、古い什器類を一掃し利便性を高めた什器類を設置したこと等により、従来に比べ、コーナーを見渡す明るい空間が創出できた。雑誌や新聞が読みやすく、また教員推薦図書等を展示型で配架することにより各々の図書が目にとまりやすく気軽に閲覧している学生の姿が見受けられる。

また、コーナーの窓側には、新たに照明、コンセント付きのカウンター席を設けた。この席は、一人になって情報を整理し学修したい時、学生が個々に所有する情報端末機をフル活用しながら集中して取り組むことができる最適な場となっている。2020年度は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策により、通常より学生来館者数は激減している状況であり、ソーシャルディスタンスを保つための座席解放となっているが、このコーナーと座席は、一番人気で開館早々に満席となる状況である。

図書館受付カウンター近くにデジタルサイネージを1台設置した。現在は図書館の利用案内、講習会案内等のコンテンツを流しているが、今後、他課室とも連携して図書館以外の情報も広報する予定である。なお、令和2年度の取り組みについては、図書館広報誌『My CUL』や図書館Twitterなど各種広報媒体を活用し情報発信を行っている。

本取組「後樂園キャンパスにおける学び場の未来図」の最終年度である2020年度は、新型コロナウイルス感染拡大防止のためキャンパスへの入構に大幅な制限を行ったことにより、図書館の来館者数も大幅に減少した。しかし、2021年度から対面による授業も一定の制限のもとに再開している。したがって、実際に本取組の成果が表れるのはこれからとなるが、当初のねらい通り、多様な学修形態に対応した環境を学生に提供し、グループ学習やディスカッション等を通して、主体的・能動的な学修機会を得られる場としていきたい。

以上